

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812461		
法人名	有限会社ふぁみりい		
事業所名	グループホームふぁみりい		
所在地	秋田県大仙市四ツ屋字上古道199-1		
自己評価作成日	令和元年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	令和元年10月3日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事、外出に力を入れている。月ごとの担当を決めて最低3回は季節に見合った行事や、誕生会などを行い、四季を楽しめるようにしている。壁面も季節ごとにみんなで力を合わせて作成し、四季を感じられるように心がけている。食事も同様。季節感のあるものを取り入れながら、目でも舌でも楽しめるようにしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中で、周りは田んぼに囲まれて施設の向かいには系列のショートステイがあり、また道路を挟み少し離れた場所には障害児の放課後学童保育の施設がある環境にあった。  
大半の利用者は住み慣れた環境に近い場所にての生活で近隣の方々の協力もあり地区になじんだ生活を送っている。  
働いている職員全員が笑顔を決めず、1日を楽しみ過ごすように心がけ、利用者に対して接している様子がとてもすてきでした。職員の表情、態度が利用者一人一人の表情をいきいきとし、穏やかな生活を送ることに繋がっていることが確認できた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 <b>代表者と</b> 管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日1笑を掲げているが、まずは職員が楽しんで仕事をできることを心がけている。管理者の思いを代表者も理解し、職員とともに実践している。	職員の目に触れるところに理念が貼付され、職員が理念を共有しており、常に楽しく働くことを、心がけ実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校に花見に行ったり、下校時間に合わせて散歩をしたり、犬の散歩をしている近所の方にあいさつをしながら、遊びに来てもらえるような環境を作り、実際に犬や子供を連れて遊びに来ていただいている。	小学校の児童や保育所の子供たちとの交流、地域住民との交流は近隣の方と飼い犬との交流、また地区の行事等への参加など地域の一員として常に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした <b>地域とのつながり</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に <b>伝え、地域貢献している</b>	のぼりを掲げてアピールしているが、なかなか貢献しているとまではいかない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資料に施設内の、利用者様や研修要綱を取り入れ報告できており、外部からの話も聞きながら向上できている。	運営会議には医療、地域、行政、家族、利用者の出席が常にあり、会議を通じて施設の現状発信とともに地域からの情報収集しサービスの向上につなげている。会議は、できる限り参加しやすいように時間に配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方も受け入れているので、市町村の方が来所することは割とあり、利用者様の把握もしていただいている。	行政との連携は常に密に行っている。また施設の行事等にも出席を得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊、脱走などの見られる場合のある利用者様にはセンサー対応が必要であったりするが、身体の拘束はしておらず今後もそのように取り組みながら本人の苦痛にならないケアをしたい。	離施設の対応のため入り口に床置きがたのセンサーを導入し対応している。導入後は施設より出ていかれても早めの対応ができ、一緒に散歩をして帰ってくるように対応している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さなことでも見逃さず、隠さずに話し合える環境を作りながら、内部研修などで知識を高めつつ虐待のない施設作りが維持できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が活用しているためある程度の役割や流れは把握できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、状態変化時などその都度必要な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議を通して、1年ずつ交代で家族の代表に参加してもらいながら施設の中をよりよく知ってもらい、家族の希望も取り入れるよう心がける。意見箱を設置しているが、意見書はなかなか投函されず。	意見箱の設置は確認した。ご家族には面会時に直接伺うことが多い。運営会議には1年交代でご家族の代表に参加をもらっており協力を得ている。来所時、または手紙、電話で伺っている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りはじっくりと行っており、職員のおおのの思いや、利用者1人1人の対応を話し合っている。月に一度の職員会議を通して、代表者にも話している。	朝夕の申し送り等、月1回の職員会議において職員の意見、提案、日常の意見を常に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を通しながら年に一度代表者との面談をしながら話し合うことができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は日勤扱いとして対応。研修に行く人が偏らないよう、みんながまんべんなく行けるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が主に他施設の職員との交流をし、研修や食事会などを通してネットワークづくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報をもとに、ケアマネ、家族、本人の要望を盛り込みながら検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設でできること、できないことをはっきりと話したうえで、偽りなく話をし信頼を築いている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に調理し、共に食し、会話をしながら本人の考えや昔の話などを聞く機会を設けながらお互いの悩みなどはなし関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支払い時などではできるだけ、施設に来ながら様子を見ながら払ってもらうようにしたり、相談事は毎月の手紙や面会時に話、共に解決策を検討するようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会、電話等自由にしてもらっている。また通いなれた医者にもできるだけ行けるよう配慮している。	友人、知人の面会は随時対応している。また電話も自由に掛けてもらっている。通いなれたかかりつけ医に通院しできるだけ本人の馴染みの方との交流を支援している。家族の面会時に差し入れの制限はしていないと管理者より聴取	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格を踏まえながら、席を決めている。一緒に作業、レクリエーションできる場を設け、競ったり協力し合える場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた利用者様の娘さんや、他施設に移った利用者様の息子さんなど時折訪れしてくれ、よい関係を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何が必要か、希望しているかを言葉にできない方々が多い。行動、生活の中から探し出し、不安が少しでも減るように努めている。	日常の動作の観察を密にして本人の思いをできる限り把握し、本人本位の支援ができるように検討し支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 <b>生きがい</b> 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握には努めているが、実際それが役立ったことはほとんどない。なじみのものも本人の好きな生活も自宅にある。施設で似たような暮らしをしたところで本人の満足度には至らないと思った。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	調理、家事、作品作り、作業等全てにおいて、個人差があるのを把握し、分担している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別に計画を立て、家族とも話し合っているが、実際の家族の思いは現状維持もしくは、あまり悪化せずに…ということであり、施設任せのことが多い。	本人の様子を毎月手紙にてご家族に出している。モニタリングは3か月ごとに行い、評価をつけて手紙でご家族の意見を収集し本人の満足度、。利用者が楽しく生活できるように、職員の意見を反映し介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日9名分の申し送りを細部まで行っている。個別のケース記録には、サービス内容をかきこみ、どのようなケアが必要か、どのような感じだったかを記入。必要性を見極めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に、小学校や郵便局、農協等がある。廃油を捨てに散歩に行ったり、近くの南部屋敷に外出に行ったりしながらできるだけ地域の方々になじめるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の要望をできるだけ聞き入れるようにしている。	かかりつけ医師との協力は密であるも、歯科医、歯科衛生士との協力が薄いようだ。	歯科医師との協力を密にしていられることを望む。そのためには歯科医師会からの地域の訪問診療で、協力してくれる歯科医師の情報を収集することを望む
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回訪問看護を取り入れながら、ケアの相談などを行っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	期間はあるものの、治る見込みのある場合は2か月間待つことにしている。何度か入院者も出たが、戻ってこれる場所があるという安心感があつたとのこと。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在寝たきりに近い方もいる。契約時や、その都度の状態変化の際に、ご家族様の気持ちを再確認しながら施設でできること、できないことも鵜H前(理解し)てもらい、今後のことを検討していただいている。	看取りについてはご家族、医師と十分な話し合いをしてそのうえで書面を取り交わしている。年1回のペースで看取りの内部研修を訪問看護師、かかりつけ医の協力で行っている。状態変化し医療的処置等が必要な時は系列のショートステイの看護師の協力で行っている。家族の気持ちの変化が生じたときは契約の見直しも可能。終末期に、ご家族が付き添うことも可能である。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で学んではいるが、実践までは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練では、日中と夜間を想定した訓練を行っている。	半年に一度の割合で地域住民の参加してもらっている。避難場所の指定はされていないが災害時の受け入れ可能。食品備蓄、ガスストーブ、発電機などの準備はしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ間違っていることを訂正せず、そういうやり方もあるね、などといいながら自信を失わないよう心がけている。	職員の方たちが利用者と接する態度言葉かけの状態などから一人一人の尊厳やプライバシーに配慮した対応をしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけそのように心がけ、質問疑問形式での声かけもするが、かえって決めれない自分に不安を覚えたりする場面があり、不安にならないような声かけを優先している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけそのようにここ心がけているが、実際はご飯の時間、入浴日など、流れに合わせてもらうことの方が多い。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	まずはスタッフから、おしゃれを楽しむようにしている。制服、ジャージはNGとし、利用者様の衣類は組み合わせ、季節感楽しみながら着替えてもらっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前の聞き取りでももちろん好みのものは聞いておくが、暮らしの中で見極めて好きな食べ物、形状、味付けをしている。調理、片づけはいつも一緒におこなっている。	季節の野菜など地域からの支援がみられた。利用者一人一人の状態に合わせて食事の準備や後片付けを自ら進んで行っている。その日の状態により食事介助が必要な利用者には、声掛けをし、呑み込み確認しながら食事介助をしていた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう <b>状況を把握し</b> 、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全て摂取量は記録している。カリウム、塩分制限ある方には極力控えて提供。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行えている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の間隔を把握し、できるだけ失禁のないトイレ誘導を心がけている。	排泄の自立に向けた支援を排泄チェック表を用いて排泄時間を把握し、声掛けや誘導されている。排泄用品もリハパン、尿取りパット、綿パンツに変わったりしていた。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多いもの、野菜、根菜類を多く取り入れるように気を付け、毎日の体操、個々の運動は特に2人、毎日歩行運動してもらっている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は希望があれば応じるが、現在は業務の流れで入浴しているのが正直なところである。1日置きに入浴しているが、体調や、疲労感など見極め、3日に1回の方もいる。	入浴は利用者一人一人の状況や希望に合わせてると共に、体調などの健康状態などに留意して行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ内服薬に頼らないよう心がけている。実際に状況を見て、介護力で補えるようであれば、抜いたり減らしたりしながら過剰な摂取を避けている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に検討しており、医師や看護師、家族等と相談しながら、過剰な摂取を避けている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	字を書くのが好きな人、貼り絵が好きな人、家事が好きな人それぞれ何かしら行い、自身を失わないように心がけている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の人々の協力はなかなか困難であるが、月に3回の行事を設け、月担当が工夫して、四季の行事を楽しんでおり、できるだけ月に一回外出できるよう心がけている。受診時にも買い物を取り入れたりしている。	月1回の外出を支援している外出前に職員が現地を下見確認してから行っている。利用者の買い物支援(自分のほしい物を買、自分でお金を支払う)をしている。月に3回の行事を設け、月担当が工夫して、四季の行事を楽しんでいるとのこと	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が預かっている状態。自己管理できなく、かえって混乱を招く。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	したがる人がいない。電話をかけられても家族が迷惑がるケースもあった。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に季節ごとに壁面をみんなで作成し、季節感あるものを心がけている。	共用の空間は音、臭い、光、温度、光や色に配慮されている。窓の外は田んぼが広がり利用者が植えた野菜が収穫され、訪問日の食卓に上がっていた。居心地よい空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファと2つのテーブルがメインになっているが、話が合いそうな席順を心がけている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものを使用するように心がけている。入居時にご家族様とも話し合っており、個々の居室空間がある。	居室は利用者、ご家族と相談して使い慣れた家具や寝具、入居前の生活が保てるように配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名札、トイレ等の表札を貼り混乱を避けている。		